

# がんセンターNEWS

Aichi Cancer Center News

## 副院長就任のあいさつ



副院長

長谷川 泰久

な知識を持ち、経験を積むことによって、この危険性を避けることができます。こうした状況で、過重労働や疲労、不適切な監督や指示、ストレスの強い環境、組織内部の急激な変化、不適切なコミュニケーションの仕組み、貧弱な設備や建物などは働く人々に影響を及ぼし、さらには患者さんにまで影響を及ぼします。このような組織が持つ要因を少しでも減らすよう頑張ります。

本年5月より愛知県がんセンター中央病院副院長を務めさせていただくことになりました。よろしくお願ひ致します。

私は昭和60年に愛知県がんセンター頭頸部外科（当時は外科第一部）に医長として赴任し、平成12年より部長を務めてきました。

これまでは、がん医療の中で頭頸部外科部が果たす役割を考えてきましたが、これからは病院全体のことも担当させていただきます。この中で私の主たる役割は医療安全管理です。愛知県がんセンター中央病院はその基本理念の中で、「私たちは患者さんの立場にたって、最先端の研究成果と根拠に基づいた最良のがん医療を提供します。」と謳っています。「患者さんの立場にたって」というところに医療安全は含まれます。

われわれ医療に携わるものの行為は直接有害な結果に結びつく可能性を常に持っています。例えば、私の専門である外科は体にメスを入れます。個人では十分



副院長

岩田 広治

しながら、副院長業務に精進する所存です。新しい愛知県がんセンターの姿を皆さん（患者さん、近隣の先生方、当院職員）と共に、構築していけたら幸せです。

副院長を拝命いたしました乳腺科の岩田広治（いわたひろし）です。16年前にがんセンターに着任して以来、乳癌治療一筋に仕事をしてまいりました。この間、日本の乳癌治療は激動の変革を遂げてきましたが、常に愛知県がんセンターは変革の中核で有り続けています。今回の副院長就任に際し、篠田院長から教育・研究担当を仰せつかりました。当院は、東海地区のみならず、日本の癌診療・研究の中核を担う責務があると思っています。研究所を併設する強みを生かして、これまで以上に研究所との関係を密にして、新しい癌治療の創設に力を入れていきたいと思ひます。また、全国から多くの医師が研修に来ていただけるような、斬新できめ細かい教育システムの構築、魅力ある職場づくりを目指したいと思ひます。さらに来年1月の電子カルテ導入は、極めて重大なプロジェクトであり、今回責任者を務めることになりました。導入にあたり患者さんにご迷惑をかけないように、最善の準備を進めてまいります。今後も現場の乳癌診療を大切に

## 副院長就任のあいさつ

皆さんこんにちは。看護部長の高木仁美です。昨年4月に看護部長、今年から副院長に就任しました。その重責に身が引き締まる思いです。当院看護部には、現在31名の専門・認定看護師が勤務しています。これは日本でもトップクラスの数であり、当院の強みです。現在、愛知県内には23のがん診療拠点病院ができ、どこの施設でも一定水準のがん治療が受けられるようになりました。患者さんの入院期間は短くなり、治療の主体が外来に移行する中で、今年度から新しい取り組みとして、「がん看護外来」「緩和ケア・疼痛看護外来」を開設しました。がんと診断された時から患者さんとそのご家族をサポートできるようチームで関わります。「日本一クオリティーの高いがん専門病院」をめざし、患者さんに寄り添った看護が提供できるよう体制を整えています。「頑張る患者・家族を応援します!」「乗り越えられない問題は一緒に考えます!」「心が折れ、傷ついた時にはそばにいます!」

患者さんの最良の笑顔と最善の選択のため、お手伝いしていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。



副院長

高木 仁美

## 放射線画像の院内PACS運用(フィルムレス化)を開始しました

中央病院放射線診断・IVR部 服部 寿史、稲葉 吉隆

従来放射線画像検査はフィルムで診断し、診察時もフィルムで提示していましたが、情報技術の進歩により放射線画像も電子化され、フィルムではなくモニタ上で診断や参照ができるようになってきました。その電子化された画像データを画像サーバで保存管理して、電子カルテ等に配信を行うのがPACS(※)です。当院でも放射線画像のデジタル化を進め、PACS化に向けて準備をしてきました。そして2012年3月21日に放射線検査画像の院内PACS化を開始し、全てのオーダーリング端末モニタで放射線検査画像が参照できるようになり(図1)(図2)、フィルム出力や搬送の手間もなくなり業務の効率化を図ることができました。

さらに、他院からの画像データの院内PACS内への取込みや他院への画像提供のための画像データ出力のためのシステムを導入し、隣接する東名古屋画像診断クリニックとの画像連携ネットワークも構築しました。これにより、他院からの持込み画像も東名古屋画像診断クリニックで撮影されたPET画像なども当院モニタで参照可能となりました。

※PACS (Picture Archiving and Communication System:画像保管通信システム)



図1. 各検査ごとに撮影履歴を管理



図2. 診察室の様子

# 個別化治療について

中央病院  
呼吸器内科部 樋田 豊明

肺がんは、気管支・肺の正常細胞の遺伝子に傷がつき正常な働きが失われ無秩序に増殖することで発生します。その結果、周りの正常な組織を破壊し血液の流れに乗って他の遠隔臓器にも転移をおこします。肺がんとも最も関連の高い因子は喫煙でしたが、最近では喫煙と関連しない肺がんが増加しています。

従来の肺がん化学療法は、がん・正常細胞両方に共通な増殖メカニズムをターゲットにした薬（抗がん剤）による治療であり、がん特有のメカニズムには作用していませんでしたので、正常な細胞にも薬が作用し副作用が多い一方高い効果は得られませんでした（図1）。

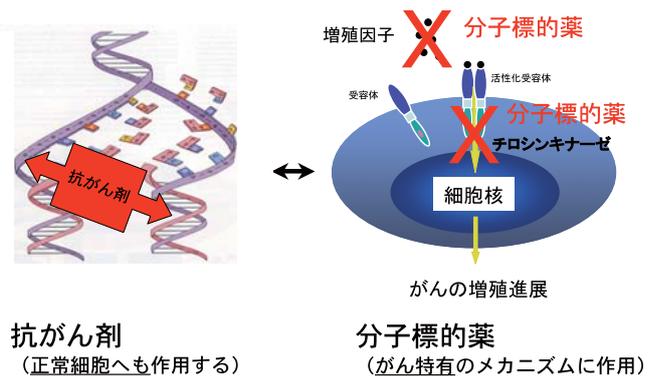


図1 従来の抗がん剤と分子標的薬の作用機序の違い

肺がんは遺伝子の異常で発生しますのでその異常遺伝子の働きを抑えることができれば効果的な治療法につながります。最近、分子標的薬と呼ばれるがん細胞に選択的に作用する薬が開発されてきました。EGFR（上皮成長因子受容体）遺伝子の異常に対する薬に加え、本年5月からはALK（未分化リンパ腫キナーゼ）の遺伝子異常に対する薬が使用可能になりました。ALK遺伝子異常とはEML4とALKと呼ばれる2種類の遺伝子が異常に結合して、遺伝子融合体を作り、この遺伝子融合体により肺がんが発生し増殖します（図2）。このALK遺伝子融合体に対する阻害薬治療が可能になりましたが、がん特有の遺伝子異常をターゲットにした薬剤の開発は急速に進みつつあり、今後の肺がんは遺伝子異常を調べて治療を選択する個別化治療の時代に突入しました。

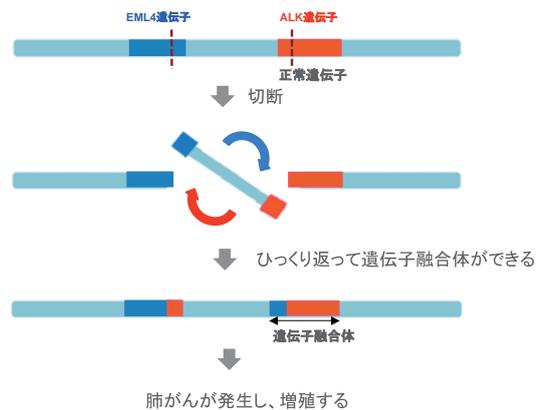


図2 遺伝子融合体による肺がんの発生

ALK遺伝子融合体の働きを抑える薬が開発されました。遺伝子の異常を検査し(愛知県がんセンター中央病院では院内で短期間に検査可能)有効な分子標的薬を用いた治療を行います。

## 平成24年度 愛知県がんセンター公開講座のお知らせ

最新のがんの情報をわかりやすくお伝えします。ぜひご参加下さい。(8月3日以外は申込み不要)

開催日時	会場	テーマ
7月21日(土) 14:00~16:10	愛知芸術文化センター	講演「肺がんをもっと知ろう」 ① 肺がんから身をまもるには ② 肺癌の薬物療法。個性に応じた個別化治療の進歩 ③ 肺がんの手術はこわくない ④ 手術室看護師のおしごと
8月3日(金) 9:00~17:00	がんセンター研究所	高校生向け 基礎実験体験講座 事前申込 定員16名 *詳細は下記をご覧ください。
9月1日(土) 14:00~16:40	がんセンター内 国際医学交流センター	【 がん征圧講演会 】 講演「難治がんの診断・治療の最前線」 ① 白血病・リンパ腫研究の最前線 ② 血液がん(白血病・リンパ腫)に対する最新の治療 ③ ナノテクノロジーによる難治がん克服に向けたがん研究の最前線 ④ 最難治がんー膵がん診断・治療の最前線
	がんセンター研究所	・パネル展示(10:30~17:50) ・研究所ツアー(12:30~17:50)(受付 10:30~)
11月11日(日) 14:00~16:00	ウイंकあいち	講演「口の衛生ががん治療に必要なわけ」 ① がん治療が引き起こすお口の症状と対策 ② とっても大切!おくすり手帳 ~歯医者さんに見せましょう~ ③ お口のセルフケア ~症状別に~
平成25年 2月9日(土) 14:00~16:10	ウイंकあいち	講演「がんと診断されたら緩和ケア」 ① 緩和ケアをはじめから受けるために ② デイグニティセラピーのすすめ ③ 緩和ケアは決して特別なものではありません

問合先 愛知県がんセンター運用部管理課 公開講座係

電話(代表)052-762-6111(内線2201) ホームページ <http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/>

### 高校生向け基礎実験体験講座を開催します

恒例の愛知県がんセンター研究所主催「高校生向け基礎実験体験講座」を、今年は8月3日(金)に開催します。このプログラムは、東海三県の高校生の皆さんを対象に、最新の生命科学実験を体験してもらうと同時に、がん研究の重要性について理解を深めていただくことを目的に開催しています。研究室を見学し、がん研究者の生の声を聞ける機会でもあります。今回は、「遺伝子増幅法でがんを診断する」と題して、がん細胞で発現している「悪玉遺伝子」を検出する実験を予定しています。

(注)おかげさまで多数の応募をいただき、今年度は既に定員に達したため、応募受付を締め切らせていただきました。



昨年の実験の様子

## 一次線毛による新しい細胞増殖制御機構の発見 研究所～発がん制御研究部～



発がん制御研究部長

稲垣 昌樹

上皮組織とは、体表面（皮膚）、管腔（消化管、泌尿器、呼吸器など）、体腔（心膜腔、胸膜腔など）などの表面を覆う1～数十層の細胞からなる組織で、細胞同士が密着してシート状の構造をつくっています。分化した正常上皮では、細胞表面に一次線毛とよばれる突起物を出しています（図1）。分化した正常上皮細胞は増殖を休止していますが、がん化すると上皮組織の形態的特徴は失われ、無秩序な増殖へ向かいます。

最近、我々は、増殖している上皮細胞からトリコプレインというタンパク質を機能欠失させると、細胞表面から一次線毛が突き出て、増殖が停止することを発見しました（図2）。すなわち、トリコプレインが上皮細胞の一次線毛形成を抑制して、増殖を促していることを示唆しています。この研究成果は、ヒトを含む高等生物の細胞増殖の新たな仕組みを明らかにしました。

今後、本研究をさらに推し進め、上皮細胞のがん化メカニズムを明らかにしていきたいと考えています。

図1：分化上皮細胞の形態的特長。細胞分裂時、中心体は紡錘体極となり、一次線毛が消失する。

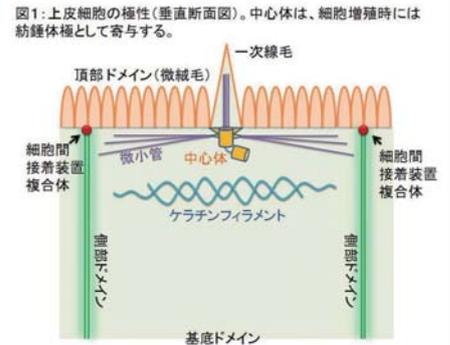
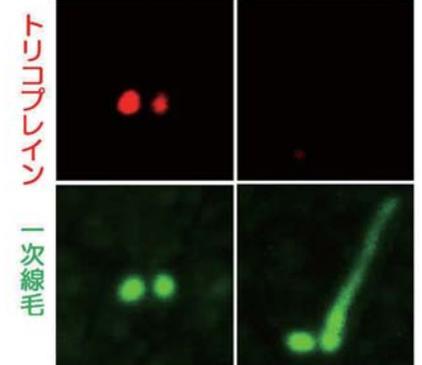


図2：コントロールトリコプレイン細胞と機能欠失細胞



## 研究員の紹介

## 研究所～遺伝子医療研究部～

遺伝子医療研究部では、血液悪性腫瘍（主に白血病と悪性リンパ腫）の病因・病態の解明とその臨床応用をめざした研究を行っています。現在、日本人に比較的多いNK細胞リンパ腫や成人T細胞性白血病/リンパ腫(ATLL)、および小児B細胞性白血病などについて精力的に取り組んでいます。研究員は瀬戸部長以下、都築室長、片山主任研究員、加留部主任研究員、在田リサーチレジデント、吉田連携大学院生、垣内大学院生と、2名の技師および実験補助員の協力を受けて日夜研究に取り組んでいます。



# がんと診断されたら緩和ケア

中央病院

緩和ケア部 部長

緩和ケアチーム専従看護師

細田 蓮子

山崎 祥子

がん医療における緩和ケアとは、がんに伴う体と心の痛みを和らげ、患者さんやご家族の生活やその人らしさを大切に考える考え方です。

緩和ケアはがんと診断された時から始まります。

## ☆ 緩和医療のあり方 ☆



例えば……

- がんと知らされた時の不安や気分の落ち込み
- 治療前から痛みがある
- 放射線治療や抗がん剤の副作用（吐き気や嘔吐）、食欲不振、しびれなど
- 手術後の痛み・再発や転移による不安
- 食欲不振、息苦しさ、リンパ浮腫などの症状
- 転院や自宅療養についての不安
- 家族が抱えるつらい気持ち



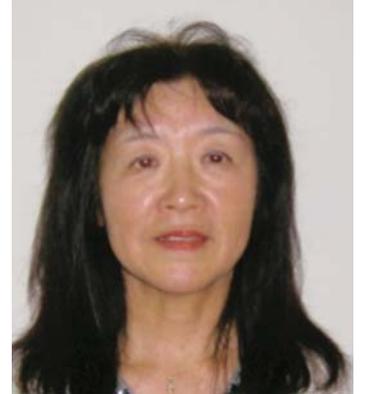
ケアリングクラウンが病院にやってきました  
山崎看護師（前列右から2番目）

などがある場合は入院、外来などの場や治療の時期を問わず緩和ケアを受けることができます。

当院では2001年から緩和ケアチームが患者さんやご家族のつらさが少しでも軽減

できるように活動しています。昨年度は約423件の相談が緩和ケアチームにありました。現在は、精神腫瘍診療科小森康永医長、ペインクリニック担当木村智政医師、看護師による緩和ケアチームで運営していますが、7月1日より緩和ケア科に下山理史医長が就任されました。下山先生は7月から火・木で緩和ケア外来を担当します。また6月から緩和ケアチームの看護師が外来の患者さんやご家族が安心して通院治療や自宅療養ができるように、緩和ケア・疼痛看護外来を開設しています。

さらに体制を強化し、患者さん、ご家族をサポートして参ります。



緩和ケア部長

細田 蓮子

## 緩和ケア・疼痛看護外来 開設のお知らせ

★開設:

6月1日から一人30分程度  
月～金 9時～13時

★相談方法:

主治医・外来看護師に声をかけてください。

★当院の外来受診をされている方で、医師の診察があるときに受けることができます。

★月に1回緩和ケア外来管理指導料ががん性疼痛管理指導料を算定します。

## 診療医の紹介

## 中央病院～乳腺科部～

乳腺科は乳がんの診断から初期治療（手術、薬物療法）さらに、再発後の薬物療法まで乳がん患者さんをトータルに診療しています。10名の医師と、2名の乳がん看護認定看護師、さらに院内の多くの関連科の協力を得て、最先端の医療を提供しています。現在、温存術後の照射回数を減らす術中照射や、形成外科との共同による同時再建手術に特に力を入れています。さらに新しいお薬の治療は、乳がん分野では日本随一の件数を行っています。手術から薬物療法まで、世界最先端の医療をご希望の際は、是非受診を考えてください。手術待ち時間も、1カ月ばかりありません。



後列右から:近藤直人医長、権藤なおみ医師、服部正也医長、藤田崇史医長、澤木正孝医長、奥村誠子医長(形成外科部)  
前列右から:市川茉莉医師、牛尾文医師、岩田広治部長、堀尾章代医長、井戸田愛医師

## 「そうだ、薬剤師に聞いてみよう！」

### 中央病院～薬剤部～

このコーナーではみなさんから薬局に関係したご質問にお答えします。

**Q1. 抗癌剤を注射する時って結構待たされることが多いけれど、どうして？**

A1. 外来と入院あわせて1日約100人～120人の患者さんが抗がん剤治療をされています。抗がん剤の調製は、投与当日に主治医から指示が出た後、薬剤師が地下のミキシング室(写真1)にて行っています。患者さんごとに投与量に誤りがないかなどを念入りにチェックしたあと、外来化療センターや病棟へ届けられます。そのため、時間がかかる場合がありますのでご理解ください。



写真1

**Q2. 飲み薬は院外の保険薬局でもらっているけど、病院の薬局ってなにしているの？**

A2. 病院の薬局では、入院患者さんのお薬の調剤と、治験薬や一部の内服抗がん剤など特別に外来患者さんに処方される薬の調剤をしています。会計の隣にある薬局窓口(写真2)では外来患者さんにお薬の説明を行っていますので、ご質問が有ればお気軽に声をかけてください。特に、他の医療機関でお薬をもらって服用中の患者さんは早めにご相談ください。

なお院外処方せんの有効期限は処方日を含めて4日ですので、期限内にお薬をもらいにいってください。

その他にも薬局では下記のような仕事をしています。薬についてわからない事がありましたら薬剤師になんでも聞いてください。



写真2

- ・注射薬・院内製剤の払出し
- ・病棟での薬の説明(抗がん剤、麻薬など)
- ・緩和ケア、栄養管理、感染対策、口腔ケア、がん化学療法、褥瘡対策などのチーム医療
- ・治験事務局(新薬の開発や、既存の薬の新しい使用方法について臨床試験を行っています)

## 診療医の紹介

### 中央病院～消化器外科部～

われわれ消化器外科部は4診療グループ(食道、胃、大腸、肝胆膵)の構成で、スタッフ11名とレジデント6名の総勢17名で消化器がん全般の外科診療を行っています。昨年は826例の手術(当院の手術件数の約35%)を行い、その内訳は食道75例、胃224例、大腸374例、肝胆膵153例でした。手術方法や術前・術後の抗がん剤の使用に関しても、最新の知見を積極的に導入して外科治療に取り組んでいます。また手術までの待機時間を短縮するように努力しており、初診後は1ヵ月前後で手術をしています。



前列左から  
千田嘉毅医長、小森康司医長、金光幸秀医長、清水泰博部長、佐野 力医長、伊藤誠二医長、安部哲也医長

後列左から  
服部憲史医師、植村則久医長、金城和寿医師、大澤高陽医師、木村賢哉医長、川合亮佑医師、三澤一成医長、伊藤友一医長、今井健晴医師、二宮 豪医師

## ロゴマークを新たに作成しました



愛知県がんセンターでは、スタッフから募集した作品をもとにロゴマークを作成しました。英文名称である「Aichi Cancer Center」の頭文字「A.C.C.」をデザイン化したもので、愛知県県章の色であるブルーを基本にして、さわやかなイメージで制作しました。

がんセンターのホームページに制作意図などを詳しく紹介しております。皆様ががんセンターをより身近に感じていただくことができるよう、今後、広報活動などに活用していきます。



## がんセンターホームページをリニューアルしました

がん治療に特化した病院であります「愛知県がんセンター中央病院」のトップページでは、患者さん向けのコンテンツを前面に打ち出しました。

また、がん克服に向けた研究や次世代の研究活動を担う若手研究者の育成に向けて活動している「愛知県がんセンター研究所」のホームページを新たに開設しました。

見やすいページを目指して作成しましたので、ぜひご覧ください。

がんセンターホームページ <http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/>  
(中央病院、研究所のページへはこちらからアクセスできます。)

## 外来診療案内

受付時間	午前8時30分～11時30分 (自動再来受付機による受付は午前8時からできます。)
休診日	土・日・祝日、年末年始
診療科	消化器内科、呼吸器内科、循環器科、血液・細胞療法科、薬物療法科、頭頸部外科、形成外科、呼吸器外科、乳腺科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、婦人科、皮膚科、眼科、放射線診断・IVR科、放射線治療科、緩和ケア科（精神腫瘍科・リンパ浮腫外来・ペインクリニック）、専門外来（禁煙外来）
外来診療担当一覧	毎月1回、月初めに更新しています。 詳しくはホームページをご覧ください
休診情報	お電話またはホームページでご確認ください。
ホームページ	<a href="http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/">http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/</a>

※再診予約制・診察券をお持ちの方は、診察予約をしてください。052-764-2911（直通）午前9時～午後5時（土・日・祝・年末年始を除く）

※セカンドオピニオン外来は、全科で対応しています。（完全予約制・自由診療）

※精神腫瘍科及び禁煙外来は、予約のみの対応です。

## 交通のご案内

### ★公共交通機関のご案内

- 地下鉄利用 名城線「自由ヶ丘」駅2番出口から徒歩7分
- 市バス利用 基幹2系統・星丘11系統「千種台中学校」下車徒歩4分

### ★車でのアクセスのご案内

- ◎一般道路  
本山交差点から北へ約10分、平和公園の北西
- ◎高速道路  
東名高速道路「名古屋IC」から西へ約15分  
名古屋高速「四谷出口」から北へ約10分

※詳しくはホームページをご参照ください



愛知県がんセンター Tel.(052)762-6111 Fax.(052)764-2963

〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号 ホームページ <http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/>

愛知県がんセンター

検索